
南海地震:建設コンサルタント会社、避難所に井戸寄贈 来年末までに設置へ ／高知

◇県内40本、愛媛にも10本

近い将来に起こることが予測されている「南海地震」に備え、高知市内の建設コンサルタント会社が、県内の避難所40カ所に井戸を掘って寄贈することになった。大地震の際、水の確保は大きな課題となっており、被災地での水不足対策に貢献しそうだ。【内田幸一】

井戸を寄贈するのは、建設コンサルタントや地質調査などを手掛ける「相愛」(高知市重倉、永野敬典社長)。同社は地下水調査なども業務として行っており、来年の12月に会社が創立50周年を迎えるのを期に、記念事業として地域に貢献しようと、南海地震が発生した際に課題となる水の確保のために、井戸を50本掘る案が社内で浮上。今年7月に橋本大二郎知事に電子メールで申し出たという。

井戸は県内の40避難所と愛媛県内に10本掘る。井戸に付けるポンプは停電に備えて手動にする。県内ではすでに地下水があることが見込まれ、津波の被害を受けない65地点の候補がピックアップされており、今後各市町村と調整を行い、来年末までに井戸の設置を進める予定という。

同社の50周年記念事業の井戸掘り事業世話役の川崎高思さんは「もし、地震が起きた際には1日でもライフライン復興への“つなぎ役”になることが出来れば……」と話している。

毎日新聞 2005年9月26日